



カメラ探訪

文学のふるさと

その14 泉村久連子

わたしの
ふるこの
郷土

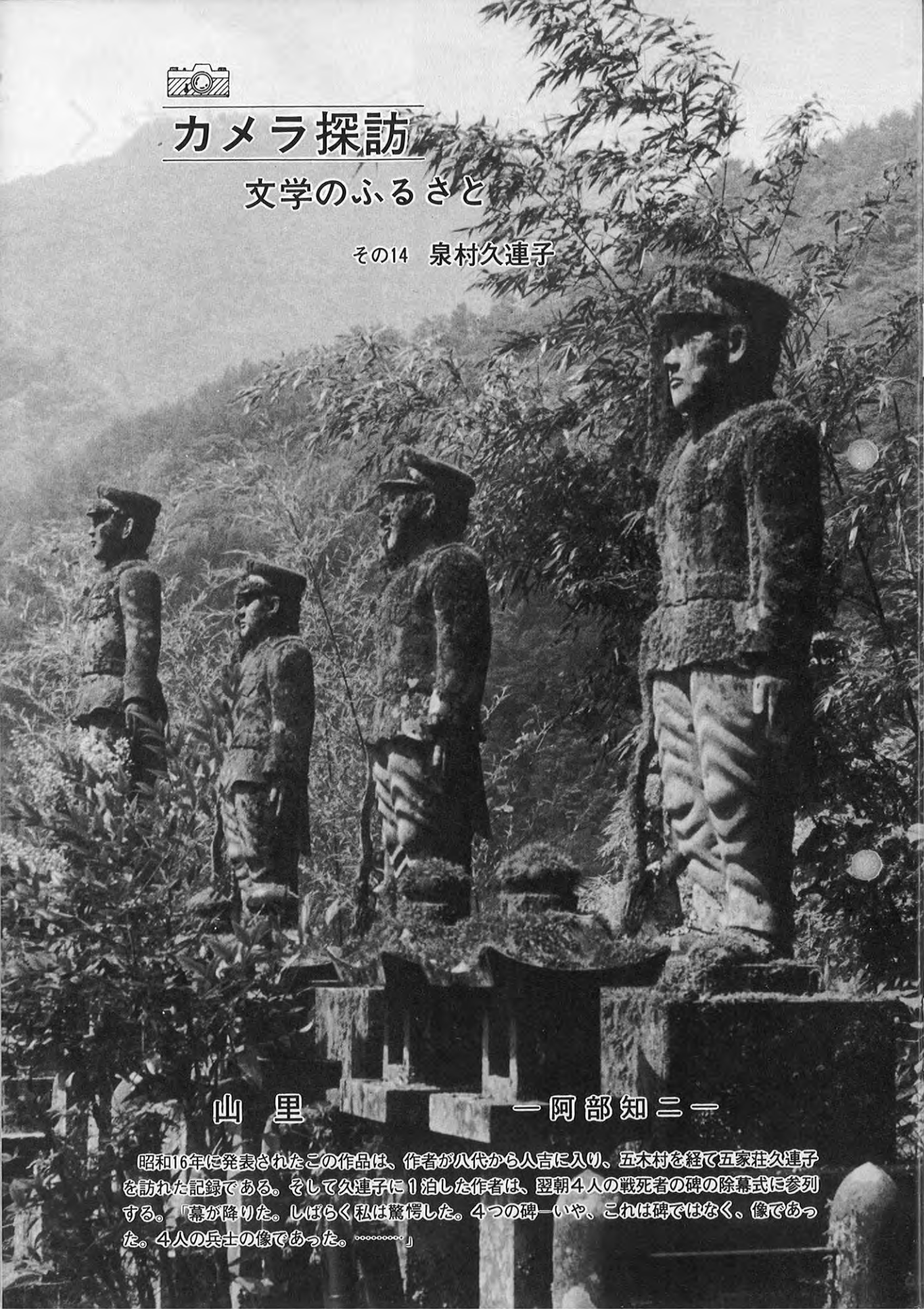
菊池市立花房小学校 六年 前田 登士郎

多くの郷土花房は、熊本市の北北東約二十キロメートルにあり、菊池市の表玄関となっています。花房の坂からは八方ヶ岳、くら岳を背景に菊池市の全景が一望のもとに開けてきてすばらしい眺めです。建物も道路もたんぼも、すっかり近代的になったなかで、日本でも珍しい私鉄ローカル電車「熊本電鉄」が「ゴットンゴットン」と昔をしのばせてくれ、住民に親しまれています。

また、菊池平野の肥沃なたんぼからは、米をはじめメロンやごぼう、レタスなど、質のよい全国的に名のおった農作物が生産されています。それに花房台地には、牛や豚の畜産も大規模に行われています。それから台地と菊池平野の接する地帯には、熊本市の水前寺、八景水谷と並ぶ三大ゆう水地の一つである木柑子があり年中きれいな、夏は冷たく、冬はあたたかいゆう水に恵まれています。

多くの郷土を語るのに忘れてはならないものに数々の文化遺産や伝承行事がありますが、その主なものを紹介しましょう。「出田のみの作り」がその一つです。「熊本県ふるさと顕彰」に選ばれ、顕彰状が授与されました。この「出田みの」のくわしい由来は、おじいさんやおばあさんに聞いても分からないほど昔からの古い伝統と歴史に培われたもので、現在十二人の保存会のみなさんが伝統的な民芸品として後世に伝えようと努力されています。

そのほか出田地区には、六世紀に構築されたといわれる「出田鬼石古墳」と古墳時代後期のものと思われる「出田堂坂横穴古墳群」があります。また木柑子には、五世紀に構築されたと思われるニッカ古墳があり、石人なども建っています。いずれも市指定文化財に指定されて考古学者の研究の対象となっており、わたしたちの先祖の生活を知る大事な資料となっています。



山里

—阿部知二—

昭和16年に発表されたこの作品は、作者が八代から人吉に入り、五木村を経て五家荘久連子を訪れた記録である。そして久連子に1泊した作者は、翌朝4人の戦死者の碑の除幕式に参列する。「幕が降りた。しばらく私は驚愕した。4つの碑—いや、これは碑ではなく、像であった。4人の兵士の像であった。……」